

〔目的〕現代日常生活の上で色の価値が増大し、色を的確に伝達することが重要となっている。色名は色彩の基準を示し、誰でもがほぼ共通に理解できる言葉である。システム化した系統色名と、伝統的に使い慣らされた慣用色名とに分類でき、本調査では曖昧なイメージを伝達する慣用色名について色の範囲を調査するものである。

〔方法〕1. J I Sにあげられている慣用色名について、各種の色票の測色データをMunsell記号に変換し、色名ごとの許容範囲を求めた。

2. 色名の使用実態として、各色名の認識性（色名を知っているかどうか）・正確性（具体的な色を正確に指示できるかどうか）についてアンケート調査を行った。また、一定の照明光源のもとで、慣用色名の示す中心と思われる色をJ I S標準色票を使用し、視感によってH V / Cを解答させた。

〔結果〕1. 慣用色名の認識性・正確性の統計をもとに分類を行い、色名として定着しているものには、色彩教育や記憶色としてのイメージが大きく関わっている傾向が見られた。

2. 慣用色名ごとに文献資料の各色票と使用実態調査から得られたMunsell値をグラフ化し、分散状態・範囲の特性や差異について考察した。

3. 以上の資料をもとにある程度の流動性を考慮して、色名を示す範囲をグラフ上に示し、慣用色名間の相互の位置関係を明らかにした。